

---

# 宇宙人日記

ヒロヒト.JJ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

宇宙人日記

### 【Nコード】

N2570B

### 【作者名】

ヒロヒト・JJ

### 【あらすじ】

父親などから伝え聞く、まだ見ぬ宇宙人の情報を、子供なりに想像を膨らませながら日記を書いている主人公。

今日はお父さんから宇宙人について話してもらいました。

お父さんが言うには、この銀河で最も生命体が存在する可能性があるのは、太陽系にある地球というところらしいです。

僕は毎晩夜空を眺めるのが大好きで、晴天の夜にいちだんと輝いている星がいつもあるのですが、実はそこが地球なのだそうです。

あの星に本当に生き物がいるのか興味がわいて来ました。しかも僕たちのように知識のある生き物なんだろうか？だとしたら僕たちより頭が良くて高度な文明があるんだろうか？

お父さんは地球についていろんなうわさも知っていました。

ヒトと呼ばれる地球の生命体は、なんと二足歩行らしいです。

たった2本の足で歩けるなんて僕たちには不安定すぎてできません。  
ん。

そして、彼らは頭のとつぺんに10万本くらい毛が生えているそうです。しかもメスになると、その毛がもつと長いそうです。僕は想像しただけで恐ろしくなってしまうました。

でも少し安心したところは、僕たちが夜行性なのに対して、彼らは夜になるとあまり目が見えないようです。もしこの星に攻めて来たとしても、夜のうちに逆襲してしまえば地球の生き物なんてへっちゃらだってお父さんが言ってました。

でもお母さんは、「宇宙人なんているはずないでしょ！ばかばかしい。お父さん子供たちを怖がらせないで下さいよ。」と言いました。

でもこんなに星は無限大にあるのだから、絶対生命の存在はある

ものだと僕は信じています。

銀河歴 117188104 の 366

今日はおじいちゃんの経験話を聞きました。

おじいちゃんは昔、国家の秘密調査員をしていましたが、無事に300年間勤め上げて、今は自宅でのんびりしています。

おじいちゃんの話によると昔、僕らの星に宇宙船が不時着したそうで、どうやらそれが地球からの船だったそうです。

中には地球人と呼ばれる生き物が二人いて、昨日お父さんから聞いた話のとおり、頭のとっぺんに毛が無数にあり、片方のヒトはすごく毛が長かったそうです。僕はきつとメスだと思いました。

でも肌の色は一方が白くて、一方が黒かったらしいです。どうやら地球人には種類があるらしいのです。

そしておじいちゃんたちは、彼らの生け捕りに成功したと言いました。

そして長い間、ずっと秘密に観察していたそうです。

おじいちゃんが言うには、地球人は6時間おきに食べ物を食べないと弱ってしまうそうです。僕たちは1度食べると48時間食べなくてもいいのに、地球人は食べ物探しが大変だなんて思いました。

おじいちゃんたちが観察している中で、最もおもしろかったのは、彼らの交尾がすごく変わっていたことだそうです。地球人の交尾はいろいろ向きを何度も変えながら交尾するそうです。

僕は地球人つてすごくめんどろな生き物なんだなって思いました。この話を聞いて、地球人がすごく身近に感じるようになりました。

でもおじいちゃんが言うには、更に昔の時代、地球船が空に見え  
ると神様が来たと思つて全員、空に向つて拜んでいたそうです。  
そんな昔から地球人は宇宙を旅しているなんて。と思うと僕は  
すごく驚いてしまいました。

銀河歴 117188104 の 367

今日の新聞に、地球人にさらわれた人の証言が載つてました。  
なんとその人は地球に行つて街を見てきたそうなので、その記事  
をこの日記に貼ります。

『私が見た驚愕の事実。私が震えながら彼らの船でおとなしくし  
ていると、食べ物らしきものを運んできた。すごい異臭がして食べ  
る気にはなれなかったが、何をされるかわからなかったので、歯を  
くいしばつて食べた。さすがに途中、吐きそうになったので近くに  
ある彼らのトイレで用を足して来た帰り、何やらキッチンらしきと  
ころをそつと覗いて見ると、なんと！！生ゴミ入れに我々の仲間ら  
しき体の1部があるではないか！脂身やスジ。う！もしやさつき  
食べたのも。私はショックと共に、我々国家の危険を感じた。一  
刻の猶予もなく軍備を整え、侵略に備えなければならぬ。

その後、6時間おきに食べ物が運ばれてきた。私に対する食の拷  
問か！共食いさせ、しかも私の胃を破裂させようとしているのだ。

その後、彼らの星に着き私が驚いたのは、1日が24時間しかな  
いということだ。夜が短すぎる。だから彼らは夜行性にはなれない  
のだろう。夜になると街の灯りがまばゆすぎる。我々の星は夜に灯  
りなどいらぬ。

私は施設らしいところで、体の様々な検査をさせられただけで、こうして運良く我が星に戻された。とても友好的とは思えなかったが、この器用に歩く二足歩行の不気味な生命体を我々は強く意識しなくてはならない。

そして一刻も早いうちに我が星も宇宙へ飛び出して行ける技術を学び、地球人の侵略から阻止せねばならない』

僕はショックでした。憧れもしていた地球人がこんなに野蛮だなんて。早くこの星に宇宙艦隊が組織されたら、僕はすぐ入隊してこの星のために働こうと思います。

こんな記事を読んだからか、僕は今、満天の夜空に輝く地球を違った意識で見ながらこの日記を書いています。

( 終わり )

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございます。嬉しく思います。ほんの一言でも感想をいただけたら嬉しく思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2570b/>

---

宇宙人日記

2010年10月10日13時50分発行